

社会福祉法人恵の実

令和 6 年度事業報告書

法人概要

1. 理念

ひとり一人の意欲を大切に、たくましく、かしこく、やさしく育つことを願いながら、発達の弱さをもつ子どもも含め、0歳から学童、大人まで共に育ち合う共同の子育てをめざします。

2. 行動指針

【社会的ルールの遵守（コンプライアンス）の徹底】

- ・ 社会福祉法人恵の実は、関係法令、法人の定めた諸規程はもとより、法人の理念や社会的ルールの遵守を徹底します。

【環境保全・安全衛生の推進】

- ・ 社会福祉法人恵の実は、地球的規模の環境破壊が進む中で、その抑止に日ごろから関心を持ち、取り組みます。
- ・ 利用者や地域の方と共に職場及び地域の環境保全と安全衛生に積極的に取り組みます。

【社会貢献の推進】

- ・ 社会福祉法人恵の実は、地域や社会に根ざした法人であるために、社会貢献活動を行います。

【人権の尊重】

- ・ 社会福祉法人恵の実は、差別のない公平な法人であるために、互いの個性や違いを積極的に認め合い一人ひとりが平等であるという考えの下に行動します。

【プライバシーの保護】

- ・ 社会福祉法人恵の実は、プライバシーの保護に最大限の努力をします。

【個人情報の保護と管理】

- ・ 社会福祉法人恵の実は、個人情報保護法等に基づき、個人情報の適正な取扱いを行います。

【公正・公平な取引の推進】

- ・ 社会福祉法人恵の実は、公正かつ公平で健全な取引を行います。

【行政機関等との関係】

- ・ 社会福祉法人恵の実は、自立した法人として行政機関と対等かつ健全な関係を保持します。

【説明責任（アカウンタビリティ）の徹底】

- ・ 社会福祉法人恵の実は、利用者やその家族・後見人等に提供するサービスや関連する情報について、適切に説明する努力や工夫を行います。また、地域の理解と信頼を高めるために地域とのコミュニケーションを図ると共に、適切な情報公開、情報提供に努め、説明責任を果たします。

【危機管理（リスクマネジメント）の徹底】

- ・ 社会福祉法人恵の実は、常に安全性に配慮したサービスの提供と事故防止に努めます。

3. 実施事業

第2種社会福祉事業： 保育所、障がい児通所支援事業、障がい児相談支援事業

4. 役員

評議員	中島	徹英
評議員	井上	豊重
評議員	松井	恵美
評議員	安藤	千都子
評議員	小林	琢生

評議員	山内	博子
評議員	庄田	育代
理事長	尾崎	恵理子
理 事	柳澤	友美
理 事	菅沼	裕子
理 事	鈴木	陽子
理 事	鈴木	聡
理 事	大森	妙子
監 事	西本	全秀
監 事	清水	正人

法人本部報告

1. 経営状況報告

➤ 職員状況

- ・ 採用・退職 (2025. 3. 31 現在)

施設名	採用者		退職者	
	正規	非正規	正規	非正規
恵の実保育園	0 名	5 名	—	3 名
恵の実「ホップくん」(拠点区分)	—	2 名	—	1 名
恵の実「ステップくん」	—	0 名	—	0 名
恵の実っ子クラブ	—	2 名	—	0 名
計	0 名	9 名	0 名	4 名

- ・ 職員数 (2025. 3. 31 現在) ※休業中職員含む

施設名	正規	契約	パート	合計
恵の実保育園	14 名	6 名	15 名	35 名
恵の実「ホップくん」(拠点区分)	5 名	6 名	5 名	16 名
恵の実「ステップくん」	5 名	3 名	2 名	10 名
恵の実っ子クラブ	2 名	1 名	4 名	7 名
計	26 名	16 名	26 名	68 名

※兼務職員については重複してカウントしている。

- ・ 労災・傷病・休業 (2025. 3. 31 現在)

施設名	労災	傷病	介護休業	産休・育休
恵の実保育園	—	—	—	1 名
恵の実「ホップくん」(拠点区分)	2 名※	—	—	1 名
恵の実「ステップくん」	—	—	—	1 名
恵の実っ子クラブ	—	—	—	—
計	2 名	—	—	3 名

※「ホップくん」の職員が、利用児を介助しながらリズムをしている際に、右足首を柱にぶつけ、「右関節外果骨折」と診断された。また同じく「ホップくん」の職員が、園庭で子どもを追いかけている際、園庭にある鉄棒の支柱に足をぶつけて剥離骨折と診断された。

➤ 各事業利用者実績

施設名	定員	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
恵の実保育園	60	66	66	66	66	66	66
恵の実「ホップくん」	10	10.0	10.0	9.8	9.3	8.8	9.6
恵の実「ステップくん」	20	16.8	17.9	17.2	16.6	14.7	17.0
恵の実っ子クラブ	40	32	32	32	32	32	32
計	130	124.8	125.9	125	123.9	121.5	124.6

施設名	定員	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
恵の実保育園	60	66	66	66	66	65	65	65.8
恵の実「ホップくん」	10	10.7	10.4	10.5	10.6	10.3	9.9	10.0
恵の実「ステップくん」	20	17.4	16.7	17.0	16.9	16.7	16.8	16.8
恵の実っ子クラブ	40	32	31	31	31	31	31	31.6
計	130	124.8	125.9	125	123.9	121.5	124.6	135.3

2. 法人組織の運営

➤ 理事会・評議員会の開催状況

会議名	開催日	主な審議事項
理事会	6 月 7 日	(1) 決議事項 第 1 号議案 令和 5 年度事業報告の件 第 2 号議案 令和 5 年度決算報告の件 第 3 号議案 就業規則 改訂の件 第 4 号議案 安全運転管理規程 制定の件 第 5 号議案 定時評議員会 開催の件 第 6 号議案 積立金 積立の件 第 7 号議案 人件費積立金 取り崩しの件 第 8 号議案 令和 6 年度第 1 次補正予算の件 (2) 報告事項 1. 監事監査報告 2. 赤い羽根共同募金交付決定の報告 3. 第三者評価結果の報告
評議員会	6 月 24 日	(1) 決議事項 第 1 号議案 令和 5 年度 決算報告の件 (2) 報告事項 1. 令和 5 年度 事業報告の件 2. 監事監査報告
理事会	10 月 31 日	(1) 決議事項 第 1 号議案 就業規則改訂の件 第 2 号議案 経理規程改訂の件 第 3 号議案 令和 6 年度第二次補正予算の件 第 4 号議案 保育所ウッドデッキ通路 庇設置工事の件 (2) 報告事項 1. 理事長・業務執行理事の報告 2. 令和 6 年度 上半期決算報告 3. 赤い羽根共同募金施設整備助成金による足洗い場修繕の件 4. 理事長専決事項の報告
理事会	3 月 18 日	(1) 決議事項 第 1 号議案 令和 6 年度第三次補正予算案の件 第 2 号議案 就業規則 改訂の件 第 3 号議案 講師料等支払規程 制定の件

		第4号議案 資格取得報奨金規程 制定の件 第5号議案 令和7年度事業計画案の件 第6号議案 令和7年度当初予算案の件 第7号議案 恵の実保育園 運営規程 改訂の件 第8号議案 恵の実「ステップくん」運営規程 改訂の件 第9号議案 恵の実「ホップくん」運営規程 改訂の件 第10号議案 恵の実っ子クラブ運営規程 改訂の件 (2) 報告事項 1. 行政監査報告 2. 上廣倫理財団助成金決定 3. ウッドデッキ通路庇設置工事完了の件
--	--	--

➤ 監査

- ・ 7月30日(火) 恵の実「ホップくん」および恵の実「ステップくん」で愛知県による実地指導を受けた。文書指摘事項についてはすべて改善実施済み、恵の実「ホップくん」の定員超過については今後改善を図る。
- ・ 保育所指導監査を1月22日に実施した。文書指摘事項1件
- ・ 広域連合による法人指導監査を2月7日に実施した。口頭指摘事項1件

➤ 苦情および意見

- ・ 近隣より、早朝のニワトリの鳴き声と夕方の太鼓の練習音に関する苦情が豊川市経由であった。ニワトリについては雄を返却し、太鼓については全ての窓を閉めて練習を実施することとし、19時半には練習を必ず終了する旨、近隣の方に通知を出した。

3. 重点取り組み事項

(1) 職員の確保および人材育成計画

① 人材確保

1. 保育園及び恵の実「ステップくん」で、就職フェアへ出展した。(保育園 5/19、ステップ 7/21) 直接の人材確保にはつながらなかったが、法人の事業内容や理念を広める機会となった。
2. 恵の実保育園では、実習生2名の受け入れを行った。
 - ・ 豊岡短期大学 1名、日本福祉大学 1名
3. 恵の実「ホップくん」、恵の実「ステップくん」で、中高生のボランティア・職場体験の受け入れを行った。将来的な人材確保につながることを期待する。
 - ・ 恵の実「ホップくん」 中学生ボランティア 6名
 - ・ 恵の実「ステップくん」 高校生ボランティア 2名

② 人材育成

1. 毎月、新入職員や入職5年未満の職員、パート職員を対象としてミニ職員会議を開催し、法人理念や保育に関する学習の機会を提供した。

③ 人材定着

1. 職員との面談を適宜行い、職員の要望や状況等を把握するよう努めた。
2. 6月に給料表を見直し、約3.5%の賃上げを行い、職員の処遇改善に寄与した。
3. 9月に職員の職務に対する調査を実施した。結果は別添のとおり。
4. 育児目的休暇を導入し、子育て中の職員が働きやすい環境を整備した。

(2) 防災安全管理

① 衛生管理

1. 衛生委員会規程に則り、衛生委員会の開催、産業医の訪問（隔月）を実施し、職員が、安全でかつ健康に働き続けられる環境を整備した。

産業医の訪問：5/20、7/22、9/30、11/18、1/20、3/17（全6回）

衛生委員会の開催：4/26、5/24、6/17、7/17、8/19、9/30、10/30、11/25、12/16、1/20、2/10、3/17

② 安全運転管理

1. 法人として、安全運転管理者を選任し、交通事故防止のための管理体制を明確化し、職員会議にて安全運転管理に関する講習を実施した。

③ 災害対策

1. 第三者評価で備蓄品が足りないとの指摘があったため、防災食 150 食分および携帯トイレ 100 回分、保存水を購入した。
2. 6 月に、全事業所の利用者を対象に、引き渡し訓練を実施した。
3. 9 月に、全事業所の利用者及び職員を対象に防災食体験を実施した。
4. 非常時に備え、IP 無線機 3 台を導入した。



(3) 施設の整備

施設名	実施事項
保育園	・赤い羽根共同募金の配分金をいただき、足洗い場の修繕を実施した。 ・シルバー人材センターの派遣職員に協力いただき、恵の実ホール前のテラスの修繕を実施した。 ・エアコンが相次いで不調となり、未満児室エアコン、事務所のエアコン、和室のエアコン、計4台を寄付により、交換した。 ・火災報知器の経年劣化による誤報が発生。10年を経過したものについては順次入れ替えを進めていく。 ・未満児室床暖房が効かなくなり、寄付により給湯器の入替を行った。 ・株式会社斎藤塗工店様の寄付により、テラスの塗装を実施した。 ・尾崎秀穂氏による寄付で、テラス通路に庇を設置した。
ホップ棟	・災害対策として、吊り下げ式の照明を埋め込み型に変更するとともに、LED化も実施した。
ステップ棟	・ログハウス外壁の塗装工事を実施した。

(4) 地域との連携

- ・ 市田町にある伊知多神社・赤塚山秋葉神社で行われる伝統行事、「伊知多神社・秋葉火祭り」に職員および利用者家族が参加し、地元住民との交流を行った。



4. 次年度の課題

- 施設の防災対策を整備する。（火災報知器の入れ替え、避難梯子の設置、災害用井戸の設置等）
- 長く働き続けられる職場を目指し、夏季休暇（3日間）を導入する。
- 人事評価制度を見直し、職員のモチベーションにつながるような給与体系を構築する。
- 子育て中の職員との座談会を開催し、働きやすい職場づくりをさらに推進し、「くるみん認定」の取得を目指す。
- 勤務表についてアプリケーションの導入を考え、作成管理を簡素化する。
- さくらさくらんぼ保育の特徴の一つである大きな土山を園庭に作る。

恵の実保育園

1. 保育目標

- ① 「たべる」「ねる」「あそぶ」「はたらく」ことを通して、子どもの内なる自然を育てる。
- ② 自然の中で仲間との体験活動を通して、たくましさ、やさしさ、かしこさや生きる力を育てる。
- ③ 人と交わる力を育て、0歳から大人まで育ち合う。
- ④ 優れた絵本、一流の芸術、文化にふれ、豊かな感性を育てる。

2. 重点目標の取り組み状況

- ① 子どもも親も仲間集団の中で育ち合えるような保育を目指す
 - ・ 保護者主催の環境整備デーを開催し(5/19, 10/6)、世代を超えて交流できる場となった。
 - ・ 保護者が日ごろ感じている保育や子育てに関する悩みを共有する場として、恵の実サロンを月1～2回(計14回)開催した。
- ② 各職員が保育や子どもの発達を学び、年齢に応じた保育について深める
 - ・ 全国実践交流会や東海地区学習会への参加や各種学習会への参加を促し、発達や保育に関する学びを深める機会を提供してきた。
 - ・ ミニ職員会議を毎月開催し、若手職員や新入職員(パート職員含む)が理論と実践面から保育について学ぶ機会となった。
- ③ 世代交代に向け、クラスを越えて保育を検討できる職員集団を目指す
 - ・ 総括会議や各部会、年齢部会などを通してチームで保育を検討している。
 - ・ 年長合宿に他学年の職員が参加する等、クラスを超え職員が関り合う機会を設けている。

3. 利用者の状況

＜恵の実保育園＞

年齢	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
0歳児	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
1歳児	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
2歳児	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
3歳児以上	47	47	47	47	47	47	47	47	47	47	46	46
合計	66	66	66	66	66	66	66	66	66	66	65	65

・ 総園児数は令和5年度の71名から令和6年度66名と前年比93%となり、9月末時点の未満児比率は令和5年度34.3%から令和6年度28.8%と約5.5%の減となっている。

・ 1月末で、4歳児クラスで1名退園児がいたため、合計園児数が66名から65名に減少した。

＜一時預り事業＞

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
利用人数	4	3	5	7	8	8	5	5	7	8	9	11	6.6
利用回数	17	21	23	33	36	41	44	43	48	47	53	48	37.8

4. 主な行事と実施状況

月	行事・活動	実施状況
4 月	入園進級式、 春の散歩、苺狩り	新入園児世帯に園生活について説明すると共に、在園の世帯には昨年度の保育の報告をおこなった。卒園生の苺農家で苺を収穫させていただいたり、山菜を摘みをして調理して楽しんだ。
5 月	端午の節句 畑づくり 春の登山	藍で染めた鯉のぼりを飾り、端午の節句を祝った。地域の牧場へ牛糞を取りに行き、苗の植えつけ準備をした。保護者会主催の草笛コンサートを楽しんだ。大塚海浜緑地（海）や宇連山登山等
6 月	野菜の苗植え、ホタル合宿、ヤマモモ採り	田植えをしたり、夏野菜の苗を植えた。ホタル見学、愛知子どもの国でヤマモモ採り、本宮山登山、葦生湿原での散歩等。
7 月	七夕、プール遊び、川遊び 白馬八方尾根登山合宿 夏野菜の世話・収穫	七夕のお話を聞いて七夕飾りを飾った。御在所登山をして脚力をつけつつ、白馬八方尾根登山に挑戦した。長篠の川遊びをしたり、卒園生の畑でトウモロコシ狩りを楽しんだ。
8 月	プール遊び、川・海遊び 夏野菜の世話・収穫	プールや川で培った泳力で海にも挑戦した。 夏野菜を収穫し、川でバーベキューをするなどして楽しんだ。
9 月	お月見、縄編み合宿 集団遊び	お月見団子を作り、お月見のお供えをした。鯉をつかみ、その感動で鯉のぼりを作った。自分たちで育てた藍でたたき染めをした。
10 月	運動会、稲刈り	夏に培った体力を支えに、運動会という大きな節目の行事に向かい仲間と協力して挑戦し、達成する喜びを味わった。
11 月	森の家合宿、リズム学習会、提灯祭り	季節の変化を感じ、秋の実や植物を見つけたり、五感を使い自然を楽しんだ。
12 月	クリスマス会	クリスマスの雰囲気を楽しみながら、冬の制作を楽しんだ。
1 月	雪遊び合宿、七草摘み、まりつき、コマ回し、凧あげ	そり遊びやかまくら作りなど自然の中で雪遊びを楽しんだ。季節の変化を感じ、冬ならではの遊びを楽しんだ。
2 月	節分、お祝い会	節分のいわれを知り、日本古来からの行事を楽しんだ。東海地区の姉妹園の園児が集まり、卒園を祝う会を開催した。
3 月	雛祭り、卒園式、卒園旅行	雛祭りのいわれを知り、春の制作を楽しんだ。卒園式を開催し、年長児の門出を園全体でお祝いした。

5. 地域支援

➤ ミニ保育体験

市内未就園児とその保護者を対象としたミニ保育体験を6月から12月まで月1回実施し、計46組の親子が参加した。

	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
利用者数	14 組	9 組		9 組		9 組	5 組			

- 日本福祉大学保育士等キャリアアップ研修 「幼児教育の環境～幼児期の遊びについて～」に於いて、保育実践動画を研修資料として提供した。
- 豊橋市の希望ヶ丘こども園の依頼により、給食調理員の見学を受け入れた。
- 豊岡短期大学通信教育部、日本福祉大学よりそれぞれ実習生1名の受け入れをした。
- 地域の子育てリズムサークルの依頼によりリズム指導をした。
- 近隣市町村の保育園の依頼により、研修会をおこなった。

6. ヒヤリハット・事故報告

- ヒヤリハット (25 件) 事故報告 (1 件)
 - ・ ヒヤリハット・事故 計 26 件のうち、73%が未満児クラスからの報告であるが、これは未満児クラスに経験の浅い職員が多く、その職員たちがヒヤリと感じた件の原因と対策を考えることで、安全管理の意識を高めてもらうためにおこなったものである。

7. 安全管理

- 職員会議で、嘔吐処理、プール活動、熱中症対策、誤飲・誤嚥について確認し、マニュアルに基づいて実施してきた。また感染症情報から得た情報をもとに、熱中症、マイコプラズマ肺炎、手足口病、破傷風等の疾病について対応の仕方を共有した。
- 6 月に引き渡し訓練、9 月に防災食体験を実施した。
- 火災報知器の誤作動があり、近隣の方にご迷惑をかけた。経年劣化によるものと誤作動が起こりやすい機種であることが指摘されているため、次年度、火災報知機の入替えを行う。
- 自然豊かな環境であることもあり、蜂や蛇、毛虫などを見かけることがあり、見つけたら危険を未然に防ぐようにしてきた。
- ウッドデッキテラスが雨で濡れて滑りやすくなることや、経年劣化による事故防止のため、全額寄付により庇を設置することが出来た。

8. 環境整備

- 保護者の協力のもと、畑の土留めを作成し、野菜を作ることができた。また、シルバー人材センターの方やボランティアの力によって園庭の芝生が整備され、子どもたちが裸足で心地よく過ごすことができる園庭になった。保護者や子どもたちによって、草刈りや水路の清掃もしていただいた。
- シルバー人材センターの方を依頼し、テラスの板を張り替え、ささくれを無くした。
- 環境整備について、職員会の中でも検討するなどして、職員の意識が変わってきたことにより、園内が美しくなってきた。
- 園庭に、さくらさくらんぼの特徴である大きな土山を設置した。(土は今後増やしていく)

9. 次年度の方針と課題

- 中堅層が子育て世代となり、若い職員の育成と定着を目標にメンター制度等導入、人事評価制度の見直しなどを行っていく。
- 月 1 回は職員総出の掃除デーを設け、更なる環境整備、整理整頓に努めていく。
- 園庭の老朽化した大型遊具・ままごと小屋を解体する。
- 市の防災リーダー研修に参加し、災害に備えていく。
- 不審者マニュアルの整備に向けて、警察署の方に来ていただき助言をいただく機会をもうける。
- 将来的な利用者確保に向け、SNS やホームページ等での情報発信を強化していく。

児童発達支援事業 恵の実「ホップくん」

1. 療育目標

- ① 「たべる」「ねる」「あそぶ」「はたらく」ことを通して、子どもの内なる自然を育てる。
- ② 恵の実保育園と連携した交流保育の中で、仲間と共に様々な体験をしながら、子ども同士の関わり合い、育ち合いを大切にする。
- ③ どんなに障がいが重くとも、人間の育つ道筋は同じである。一人一人の発達に合わせて、ゆっくり丁寧に積み上げていく。
- ④ 大人が安心して子育てに向かえるよう、親同士のつながりを作り「子育て」と「親育ち」を学んでいけるようサポートする。

2. 重点目標の取り組み状況

- 子どもひとりひとりの「たべる」「ねる」「身体の発達」という生活の基盤について現状を把握し、ひとりひとりの課題を明確にする。保護者と生活の基盤づくりの大切さを学び合い、各家庭に合わせた工夫をしながら、保護者と共に生活の基盤をしっかりと育てていく。
 - ・ やりとりノート（保護者との連絡ノート）で家庭での生活の現状を把握した。
 - ・ 子どもの様子を観察し、生活の現状に係る課題をとらえ、日々の送迎時などの時間や面談時に一緒に工夫を考えてきた。
- 子どもが育つ道筋を大切にし、“子どもひとりひとりの本当の願い”を考え合い深めていく。
 - ・ 職員に全国実践交流会や東海地区学習会への参加や各種学習会への参加を促し、子どもの育つ道筋について学びを深める機会を提供してきた。
 - ・ 職員会議や、支援計画に対する評価を職員全体で話し合って考えを深めてきた。
- 保護者が「子どもが育つ」ということを学び、子育てに自信が持てるようにサポートする。
 - ・ クラス会や保育報告会などの参加を促し、学びの場を提供した。
 - ・ 子育ての悩みや不安を分かち合い、相談できる場として、ホップ茶話会を開催した。

3. 利用者の状況

年齢	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
開所日	22	22	21	23	20	19	24	21	22	20	19	22	21.3
延べ利用者数	219	221	206	214	176	182	257	219	230	211	195	217	212.3
日平均	10.0	10.0	9.8	9.3	8.8	9.6	10.7	10.4	10.5	10.6	10.3	9.9	10.0

- ◇ 3歳児1名が7月いっぱい退所（保護者の転勤によるもの）
- ◇ 9月18日より1歳児2名（双子）が利用開始
- ◇ 3月の利用率の低下は胃腸風邪の流行により欠席が多かったため

4. 主な行事と実施状況

月	行事・活動	実施状況
4月	ホップ親子交流会	新世帯を迎え、ホップ職員とホップくんを利用している親子で集まり、散歩やクッキングを通して交流した。

5 月	ホップ 4 歳児初めてのお泊り 前の夜の会	小グループでお風呂に入ったり、保護者の作った夕食を食べたり して、初めての合宿を前に、普段とは違う体験した。
6 月	ホテル合宿、ヤマモモ採り、 色遊び（にじみ絵）	少人数で色遊びをしながら、色の変化を楽しんだ。また、その時 楽しんだ“にじみ絵”を七夕製作に使用した。
7 月	七夕、プール遊び、川遊び ホップ単独海遊び	保護者も一緒に海へ出かけ、海で五感を働かせて楽しむことや、 どうやって遊び楽しむかを学んだ。子どもたちは少人数で共感関 係を大切に楽しんだ。
8 月	プール遊び、川・海遊び 畑仕事	日々畑の草取りや水やりを行い、野菜を収穫しクッキングするな ど楽しんだ。
9 月	クッキング	小グループでお団子づくりのクッキングを行い、それぞれの子ど もの発達に合わせて、いっぱい作ることを大切にしたり、出来立 てを「おいしいね」と共感しあいながら頬張ったりした。
10 月	運動会	クラスの仲間や、お友達の姿に刺激を受け、「やってみよう！」 「自分もこうしたい！」と意欲的に取り組んだり、「やりたいけ どできるかな」とドキドキしながらもひと踏ん張りし、自分の持 てる力を発揮させ、仲間や大人と喜び合った。
11 月	森の家合宿、リズム学習会、 提灯祭り	森の家合宿、リズム学習会、提灯祭り、親子遠足 森の中を仲間と一緒に歩き、豊かな自然に目を輝かせながら落ち 葉で遊んだり、松ぼっくりを拾って自分の手で工作をしたり、森 を構成する多様な樹々や自然を、自分の五感を駆使してたつぷり と触れ、楽しんだ。
12 月	クリスマス会	自分たちの部屋にもサンタさんに来てほしい！と、ブーツを作っ たり、小さいお友達の分も作ってあげようと張り切ったりして、 サンタさんがくるのを楽しみに待った。クリスマス会の日には、 クリスマスリズムをみんなで楽しみ、ごちそうに目を輝かせた。
1 月	雪遊び合宿、七草摘み、まり つき、コマ回し	サンタさんやお正月にもらったコマやまりを喜び、「自分でやっ てみたい！」という強い願いをもって何とかうまく操ろう、回そ う！！と試行錯誤しながら、粘り強く取り組んだ。頑張ったから こそ、回った時の嬉しさをとびきりの表情で表し、仲間と飛び上 がって喜んだ。
2 月	節分、お祝い会	卒園旅行に出かけ、大きなおおきな富士山やお話に出てくる海賊 船に出遭い、仲間と感動を共有しあう数日間を過ごした。
3 月	ひな祭り、卒園式、卒園旅行	卒園式で行った『森は生きている』の表現遊びで、体いっぱい動 かし、歌を力いっぱい歌って誇らしげに表現した。

5. 地域支援

- 児童発達支援事業所共有会議への参加
- 中学生のボランティア受け入れ（6名）

6. ヒヤリハット・事故報告

- ヒヤリハット（21 件） 事故報告（4 件）

7. 安全管理

- ヒヤリハット・事故について、職員会議や年齢部会にて内容と対策の周知を行っている。
- 職員会議にて嘔吐処理、怪我の応急処置、プール活動（プールマニュアル）、熱中症対策、誤飲・誤嚥についてマニュアルの確認を行った。特に誤飲・誤嚥については、窒息事故などを学び、気道異物除去法についての実技を行った。
- 避難訓練や緊急時対応訓練に加え、引き渡し訓練、防災食体験を実施した。

8. 環境整備

- 吊り下げ電球を撤去し、天井埋め込み型の照明を設置
- 引き戸の戸車を交換（劣化による摩耗）

9. 次年度の方針と課題

- 引き続き保護者支援を充実させ、保護者が家庭での子育てに自信が持てるよう、またホップくんでの子育てに安心できるようサポートしていく。
- 今後も職員会議等でヒヤリハットの内容を検証したり、虐待防止委員会と連携して療育内容や職員のメンタルヘルスケアを行っていく。
- 職員自身の安全管理（けが防止）についての対策も検討していく。
- 新規利用希望者の見学や申込を受け付け、職員体制を検討していく。
- 職員会議の実施時間・回数を分散させ、開所時間を確保しつつ会議を行うように見直す。
- 安定した事業運営を目指し、募集時期以外の見学希望者も積極的に受け入れを検討していく。
- ホップ棟引き戸のレール交換、カーテンの取り付けを実施。

日中一時支援事業所ホップくん

1. 事業目的

日中において監護する者がいない等の理由により、一時的に見守り等の支援が必要な障がい児等について、日中の活動の場を提供し、見守り及び恵の実保育園と連携した交流保育の中での育ち合いによる療育の実施等の便宜を供与する。

2. 重点目標の取り組み状況

- 児童の健康管理：「たべる」「ねる」「あそぶ」「はたらく」ことを通して、子どもの内なる自然を育てる。
 - ・ 土山で遊んだり、園内の草花を摘んだりするなど五感を大事にする療育を実施した。
- 保育園児との交流：毎月のお誕生日会や年中行事に参加し、四季折々の祝い事を園児と交流しながら楽しむ。
 - ・ 仲間と共に誕生日会や年中行事に参加してお祝いするなど楽しんだ。
- 安全管理：火災、竜巻、地震、不審者侵入などを想定した避難訓練を他事業所と協力し合っている。
 - ・ 他事業所と協力して避難訓練を実施した。
 - ・ 大規模災害を想定し、引き渡し訓練を実施した。

3. 利用者の状況

登録者数： 9名

年齢	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
開所日	21	21	20	22	18	19	22	20	20	19	18	18	19.8
延べ利用者数	124	180	166	166	128	137	176	138	133	132	124	108	142.7
日平均	5.9	8.6	8.3	7.5	7.1	7.2	8.0	6.9	6.7	6.9	6.9	6.0	7.2

4. ヒヤリハット・事故報告

- ヒヤリハット（0件） 事故報告（0件）

5. 次年度の方針と課題

- 職員会議等でヒヤリハットの内容を検証したり、虐待防止委員会と連携して療育内容や職員のメンタルヘルスケアを行っていく。
- 安定した事業運営を目指し、活動内容に関する情報発信や、見学希望者の受け入れを積極的に受けていく。

相談支援事業所「恵の実」

1. 事業目的

障がい児（以下「利用者」という）及びその家族の子育てに関する不安を軽減し、また利用者が適切な療育や支援を受けることで各年齢を豊かに生活することができるよう、ニーズの整理及び情報の提供、障害児支援利用計画作成、サービスの調整等の適切な相談支援を行うことを目的とする。

2. 重点目標の取り組み状況

① 障がい児利用援助

- 登録者数は昨年度に比べ **13 件** 増えた。本人の成長に伴い福祉サービスを卒業したり、中高生の方は、地域の障がい者計画相談支援事業所へ引継ぎを行い利用者数の調整を行っているが、新規の希望者が年々増えてきている。

② 継続障がい児支援利用援助

- 保護者が精神疾患を患っている家庭や、外国籍の方、母子・父子家庭や要保護児童（虐待）の世帯、生活困窮気味の世帯など、家族支援を必要とするケースが増えている。家族支援を必要としている世帯では、豊川市相談支援センターなどの他機関とも連携をしながら支援にあたっている。
- 医療的ケア児のケースもあり、受け入れ先が地域になかなかない状況や家族の負担も大きく、兄弟児が不登校になるなどの影響も見られている。障害者相談支援センター等とも連携を取りながら、課題解決に努めている。

3. 利用者の状況

登録者人数 **86 名** （未就学児 21 名、小学生 51 名、中学生 13 名、高校生 1 名）

－	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
計画作成 （新規）	7	4	12	12	7	8	4	8	14	12	11	15	114
モニタリング	22	19	21	16	15	22	26	16	19	18	18	24	236

4. ヒヤリハット・事故報告

- ヒヤリハット（0 件） 事故報告（0 件）

5. 次年度の方針と課題

- 今後も、困難ケースについては、豊川市障害者相談支援センターや豊川市福祉部障害福祉課、子育て支援課、訪問看護など他機関とも情報共有しながら支援にあたると共に、豊川市の地域課題として一緒に考え合っていく。
- 新規の利用希望者も多いため、利用者数の調整をしながら、サービスを必要とする家庭の受け入れができるよう検討していく。
- 今後も、相談員がケースを抱え込まないよう、管理者と連携しながら情報共有をし、一緒に検討し合っていく。
- 相談支援専門員の増員については引き続きの課題である。

放課後等デイサービス 恵の実「ステップくん」

1. 療育目標

- ① 子どもにとっても、保護者にとっても事業所が安心できる場所であり、信頼できる場所となるよう努める。
- ② 恵の実っ子クラブと連携した交流活動の中で、子ども同士の関わり合い、育ち合いを大切にし、“人が大好き”という土台を豊かに育てていく。
- ③ 仲間と共に様々な体験をしながら、主体性と人としての心の豊かさを育てる。
- ④ どんなに障がいが高くとも、人間の育つ道筋は同じである。一人一人の発達に合わせて、ゆっくり丁寧に積み上げていく。
- ⑤ 職員と保護者が共に子どもの育ちを考えあっているよう、保護者の想いを共有し合う機会や保護者が学ぶ機会を設け家族支援を行う。

2. 重点目標の取り組み状況

- ① 職員が保護者の話を“聴く”ことを大事にし、まずは保護者の想い(願い)に寄り添うことを心掛ける。子どもだけでなく、保護者自身の様子、兄弟支援、祖父母なども含めた家族全体の課題と一緒に考えあっている。
 - ・ 6か月に1回以上の定期的な個別面談の実施。その他、保護者からの要望に応じて、随時個別に話をする機会を作ってきた。
 - ・ 1～2か月に1度の定期的な茶話会の実施。6月には学習会を実施。その他、気軽に話ができる茶話会や、アンケート等書面での聞き取りの実施、先輩母さんを囲んでの茶話会等を行ってきた。
 - ・ 保護者のお迎えの際に、できるだけ一人一人の保護者に声をかけ、保護者の困り感に迅速に対応できるよう努めてきた。
- ② 子どもが育つ道筋を学び、言葉として表出されない“子どもひとりひとりの本当の願い”を考え合い深めていく。障がいのある子もない子も“共に育ち合う”ことと、ひとり一人に合わせた個別支援とを組み合わせながら、ひとり一人が仲間の一人として誇らしく育っていけるよう支援する。
 - ・ 定期的な職員会議を実施し、子どもや保護者についての情報共有を行い、職員のいろんな視点から分析し、支援方法や配慮点、子ども自身の課題や集団づくり等に反映させてきた。また、そうした子どもの状況や保育の方向性を保護者集団とも共有し、保護者集団みんなで子どもを育てていく雰囲気作りを心掛けてきた。
 - ・ 恵の実っ子の仲間との“育ち合い”ができるよう、恵の実っ子の職員と連携をしながら活動計画を立てたり、日常的な連携のもと、何気ない関わり合いの場を保障してきた。
 - ・ 職員が外部研修に参加できるよう斡旋し、研修参加後は、職員会議の中で研修報告をし、職員皆の学びとしてきた。
- ③ 仲間との活動の中で、その子のもっている力に合わせて自分の意見を主張すること、仲間と一緒に物事を決めていくことを通して、自分自身に手ごたえを感じ、自己肯定感の土台を育てていく。
 - ・ どんなに発達がゆっくりでも、自分たちの意見を主張できる場や機会を設定。みんなの会、班長活動、小グループ活動の実施。
 - ・ 大人が支えながらも子どもたち自身が計画し、実行し、失敗もしながら学ぶことができる機会の保障。
- ④ その年齢にふさわしい様々な体験活動を楽しみ、一人ひとりに合わせて好きな世界を広げ、生活の豊かさを作る。保護者と共に、将来への展望が持てる療育を目指す。

- ・ 季節ごとの体験活動やクッキング、制作活動などの実施。マルシェでの作品展示や喫茶コーナーでの接客体験。
 - ・ 子ども一人ひとりの“やりたいこと”を主張し、実現できる機会の保障。
 - ・ 高学年会や中学生活動を実施し、上級生に憧れが持てる機会を作る。
 - ・ 恵の実っ子クラブとの合同の行事への参加
 - ・ 保護者への外部学習会の斡旋。
- ⑤ 中学生活動を充実させていく。
- ・ 中学生を中心とした畑活動の実施。
 - ・ 中学生の昼食作りの実施や、リーダー活動の実施。

4. 利用者の状況

登録者数 22 名

年齢	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
開所日	20	20	21	23	20	19	23	21	20	19	18	20	20.3
延べ利用者数	336	357	361	381	293	323	400	350	339	322	300	336	341.5
日平均	16.8	17.9	17.2	16.6	14.7	17.0	17.4	16.7	17.0	16.9	16.7	16.8	16.8

- ・ 今年度、全体の登録者数は1名減ったが、新たに4名の1年生が利用となったことで、昨年度よりも利用率が安定した。(R5 日平均利用者数: 14.6 ⇒ R6: 16.8)
- ・ 8月は、家庭の都合で欠席をする児童も多く、延べ利用者数が少なくなっているが、昨年度よりは上昇している。(日平均 R5.8月: 13.6 ⇒ R6.8月: 14.7)

5. 主な行事と実施状況

月	行事・活動	実施状況
4 月	竹の子掘り 畑の土壌づくり 牛糞をもらいに行く	近くの竹林へ歩いて竹の子掘りにでかけた（事前に許可を申請して実施） 畑の石拾いや草取りをし、福井牧場へ牛糞をもらいに行き土壌づくりを行った。
5 月	草笛コンサート 畑の土壌づくり 夏野菜の苗を植える	法人全体での草笛コンサートに参加 畑を耕運機で耕し、もみ殻を撒き、夏野菜の苗を植えた。
6 月	サツマイモの苗植え 大豆の種まき プール作業 白川を愛する会	仲間と役割分担をして、畑作りを行った。 プールを作るための、土嚢づくりや土嚢運びを恵の実っ子の仲間と一緒にを行った。 地域の方と一緒に白川の土手の草取りを行った。
7 月	川遊び、海遊び、プール 買い物体験、恵の実っ子との 昼食づくり、畑の世話	プールや川遊び、海遊びと、水を楽しむ活動を思い切り楽しんだ。恵の実っ子との交流活動も兼ねて、おやつの買い物体験にでかけた。恵の実っ子の仲間と一緒に縦割り班を作り、班ごとに一緒に昼食を作ったり、一緒に食事をした。
8 月	プール、川遊び、畑の世話	講師を招き、陶芸体験を行った。

	恵の実っ子との昼食づくり 陶芸体験、夏祭り、夏合宿	子どもたちと一緒に準備も楽しみながら、小さな夏祭りを実施。 「巨大地震注意」の発表により合宿は中止をしたが、夜の花火大会までを実施。
9 月	プール 秋の夜長を楽しむ会 運動会遊び 畑の世話	9月中旬までプールを楽しんだ。プールが終了後は、散歩や運動会に向けた集団遊びをたくさん楽しんだ。 9月半ばには、“秋の夜長を楽しむ会”と称して、仲間とお風呂や夕食を共にし、お月見会を実施。
10 月	運動会遊び マルシェに向けた表現活動	運動会に向けて、集団遊びをたくさん楽しんだ。恵の実っ子の仲間と一緒に、どの子も楽しめるよう、競技内容やルールの工夫を考え合って、恵の実っ子と合同の運動会を行った。 マルシェの作品展示に向けた表現活動に取り組んだ。一人一人の個性が生かされる表現活動を大事にした。
11 月	表現活動 マルシェでの作品展示と喫茶コーナーでの接客体験 マルシェ打ち上げ サツマイモ堀り、大豆の収穫	マルシェで『みんなちがってみんないい』をテーマに、作品展示を行った。また、マルシェでは子どもたちと一緒に『喫茶ステップ』を行い、いろんな人との交流の場となった。 打ち上げでは、シャトレーゼにケーキを買いに行く体験をして、みんなで楽しい時間を共有し合った。
12 月	焚火活動、大豆作業 クリスマス制作、クリスマス会 草滑り、大掃除	仲間と協力し合いながら、大豆の殻剥き作業を行い、大豆料理を堪能した。 クリスマスの雰囲気を楽しみながら、冬の制作を楽しむ。ステップ棟での小さなクリスマス会を実施。恵の実っ子クラブとのクリスマス会にも参加。
1 月	焚火、色遊び、正月遊び	散歩に行っては薪を拾って焚火をし、焼き芋を焼いたりポップコーンを作ったりと、火を囲んでの活動を楽しんだ。
2 月	節分、大根の収穫	今年初めて大根を種から育て、ステップ棟の畑で大根の収穫を行った。大根はふろ吹き大根と漬物にして保護者にもふるまった。
3 月	卒所式、6年生を送る会 ステップ門出を祝う会	恵の実っ子と合同の卒所式と6年生を送る会に参加。恵の実っ子の仲間と一緒に気持ちを共有し合える活動として、みんなで音楽パフォーマンスを行った。 ステップ棟の6年生と退所する児童の門出を祝う会を行い、保護者にも1年を振り返るムービーを観ていただいた。

毎月、散歩（夏以外）、リズム、集団遊び、季節の制作、おやつ作り、誕生日会を実施。

6. 地域支援

- ・ 放課後デイサービス連絡会への参加
- ・ 白川を愛する会への参加（6/8, 9/7）
- ・ 学生ボランティアの受け入れ（高校生2名）

7. ヒヤリハット・事故報告

- ・ ヒヤリハット（25件） 事故報告（0件）

8. 安全管理

- 職員会議の中で、嘔吐処理、怪我の応急処置、プール活動（プールマニュアル）、熱中症対策、散歩時の安全管理等について確認し合った。
- 誤飲・誤嚥については、窒息事故などを学び、気道異物除去法についての実技を行った。
- 救急対応（心肺蘇生・AEDの使用等）の実技演習を実施。
- 定期的な発電機の操作訓練の実施。
- 他園で起きた事故についても確認し合い、安全管理につなげている。
- その他、避難訓練や緊急時対応訓練（溺水救助、見失い捜索訓練等）の実施。
- ピアノの転倒防止対策の実施

9. 施設管理・環境整備

- ログハウスの塗装、ステップ棟テラスの塗装
- 園庭や駐車場の草取りなどの環境整備
- 駐車場に人感センサーライトの設置
- 遊びの充実をはかり、土山の土を補充

10. 次年度の方針と課題

- 次年度は、1年生を4人、2年生1人を新たに受け入れする。最高学年は中学3年生となり、年齢差が大きくなるとともに、1日の利用人数も増える。職員体制を整えるとともに、利用者一人一人の安心を作るための生活スペースの工夫や、活動内容の工夫などを職員皆で考えあっていく。
- 次年度は、利用定員が満床となる。今後の新規利用児童の受け入れや、小学生と中高生の人数のバランス等の検討が必要である。
- 各種委員会の開催や、必要な研修・訓練等を計画的に実施していく。自然災害の業務継続計画をはじめ各種マニュアルが、実働に即して活かされていくよう、見直しを行っていく。
- 法人の中期計画の通り、18歳以降の障がいを持つ方の、「共に生きる居場所づくり」に向けて、引き続き地域福祉のニーズを調査し、具体的に事業内容の検討・計画を行う。
- 中学生の人数も増えてきている。引き続き、中学生活動の充実を図っていきたい。

恵の実っ子クラブ

1. 保育目標

- ・ 主体的に生活を作り、自律へと向かえる生活力を育てる。
- ・ 自由な心とそれを支える自由な身体をつくる。
- ・ 大自然を楽しむ力を育てる。
- ・ 教える力を育てる。
- ・ 自ら学ぶ力を育てる。
- ・ 自ら危険を回避できる感覚を育てる。
- ・ 表現活動を楽しむ。
- ・ どんな状況の中でも希望を見出していける楽天性を育てる。
- ・ 仲間の中で意見を出し合い、集団的に解決していける自治能力を育てる。
- ・ 様々な人との関わりを通じて、その生き方を学ぶ。

2. 重点目標の取り組み状況

- ① 子どもたちが遊び惚けるための「時間」「空間」「仲間」の3つの間を保障していく。
 - 学童全学年が入り混じって遊んだり、低学年だけで散歩に行ったりリズムをするなど、縦割りと横割りの時間をバランスよく保育できるよう、日々の職員間の連携を密に行った。
- ② 五感を使って自由に発想を展開していく遊びや活動を行う。
- ③ 子ども、保護者、職員それぞれが個の充実を図り、集団としての充実を図っていく。
 - 学童高学年を中心に子どもたちが自分たちの学童を上げることが大切にし、高学年会を行い、時には4年生も入れて話し合いを行い、学年ごとに集めて高学年が話しに行くなど「自治」活動を大事にしている。
 - 日々の出来事の話し合いについて、平日の夕方、毎月1回、低・中・高学年の保護者を集めて話す機会を作り、学童での様子をタイムリーに伝えと共に、家庭での様子も聞き、情報共有するようにした。
 - 学童親の会にて各活動の実行委員会を設置し、保育と連携し、引率活動への参加誘致や報告会で意見を交わし交流を深めている。

3. 利用者の状況

登録者数 32名

年齢	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
開所日	20	20	21	23	20	19	23	21	20	19	18	20	20.3
日平均	32	32	32	32	32	32	32	31	31	31	31	31	31.6

4. 主な行事と実施状況

月	行事・活動	実施状況
4月	たけのご掘り	竹林で掘ってきたたけのこを焼いたり、炊き込みご飯にして春の味覚を楽しんだ。
5月	春登山	宇連山、鳳来寺山など近隣の山から始まり、御在所、鈴北岳、蓼科山など夏山に向け、保護者が実行委員を組織し、保育と連携して計画・実施した（5月～7月にかけて実施）。

6 月	本宮山トレイルランニング 白川を愛する会 冒険旅行	全学年と参加希望の保護者 17 名で本宮山トレイルランニングを実施。白川を愛する会の方々と草刈、コスモスの苗植えを行った。4 年生が冒険旅行で南知多グリーンバレイに行った。
7 月	水と山の安全学習、プールあそび、海合宿	水と山の安全学習は保護者向けに実施（保護者 OB による講演）。学童プールや福井県の手の浦海岸で存分に水の活動を楽しんだ。
8 月	自然合宿、夏登山	新城市の旧門谷小学校にて全学年参加の「自然合宿」を実施。縦割り班で協力して暮らした。 低学年は乗鞍岳登山を予定していたが、悪天候により梅池自然園を散策した。中学年は車山登山を実施。高学年は燕岳登山を予定していたが、台風のため中止（11 月初旬に日帰り登山を予定）。
9 月	運動会にむけて	10 月の運動会に向け、高学年を中心に競技内容を検討し、“練習”という名目ではあったが、仲間と遊び込むことを大事した。
10 月	運動会	運動会に向けて、高学年を中心に練習を行ったり、リハーサルを行うために子どもたちが保護者に協力を呼びかけ、鈴割りを何度も行った。また、競技内容やルールも高学年が試行錯誤しながら考え、学童が一丸となり運動会に取りに組んだ。
11 月	リズム学習会	4 月から子どもたちと曜日を決めて、継続してリズムを行うようにしてきた。土台のリズム、ステップ系など仲間と共に行うことで積み上がってきた。二人組のリズムや馬跳び、縄跳び、コマは挑戦する楽しさで盛り上がるが多い。リズム学習会では、とりわけ 3 拍子のリズムを全員できれいに行っている姿が印象的だった。
12 月	クリスマス制作、クリスマス会 草滑り、大掃除	クリスマスにむけて、低学年はつる採りから始まるリース作り、中学年はフェルトを使ったオーナメント作り、高学年は切り絵のランプシェードを作り、それぞれ飾った。クリスマス会は子どもたちが企画し、集団遊びや焚火でマシュマロを焼くなどして楽しんだ。
1 月	焚火、正月遊び、スキー合宿（低学年） 紙漉き	ファイヤースターターやマッチを使用して火をおこし、焚火を楽しんでいた。1 年生にとっては初めてのスキー合宿。宿での生活においては 2 年生がリーダーシップを発揮する場面が多くあった。6 年生は小原村にて自分の卒所証書にするための「紙漉き」を行った。
2 月	スキー合宿（3～6 年生） 姉妹園の学童クラブとの交流リズム	スキーを通して、藪の中を滑ってみる、デコボコを滑ってみる、冒険してみるなど自分の「おもしろい」を見つけて遊ぶことを大事にした。 おひさま学童と一緒にリズムを行い、学童ならではのリズムに取り組み、交流した。
3 月	卒所式、6 年生を送る会	4-5 年生が中心となり 6 年生を送る会を企画。低学年は部屋の装飾や 6 年生への招待状を作成し、中学年は 6 年生と一緒に楽しめる遊びを企画した。

		卒所式では高学年が太鼓を披露（11 月から練習を開始した）した。また、6 年生は 6 年間の思いを作文にし、卒所式で読み上げた。
--	--	--

5. 地域支援および地域連携

- ・ 白川を愛する会への参加（6/8, 9/7）

6. ヒヤリハット・事故報告

- ・ ヒヤリハット（4 件） 事故報告（0 件）

7. 安全管理

- ヒヤリハット・事故について、職員会議や年齢部会にて発生状況と対策の周知を行っている。職員会議にて嘔吐処理、怪我の応急処置、プール活動（プールマニュアル）、熱中症対策、誤飲・誤嚥についてマニュアルの確認を行った。特に誤飲・誤嚥については、窒息事故などを学び、気道異物除去法についての実技を行った。
- 救急対応（心肺蘇生・AED の使用等）の実技演習を実施
- 避難訓練や緊急時対応訓練の実施

8. 施設管理・環境整備

- 水路の草刈り
- 駐車場砂利の掃き入れ
- 下駄箱の設置
- リュック掛けの設置

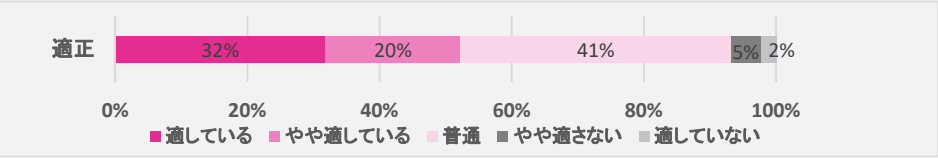
9. 次年度の方針と課題

- 報告会や学年ごとの親の会で保護者と子どもの様子について丁寧に報告し、家庭での様子を情報共有する場にする。
- 新規利用者の受け入れ準備や、新たな職員体制を整えていく。
- 姉妹園との交流日を年に 2 回程度設ける。
- 赤塚山公園の清掃活動、白川を愛する会の参加など積極的に地域活動に参加する。

2024年度 職員 職務状況アンケート 集計結果

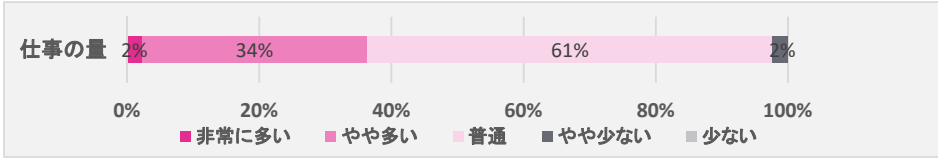
<適正>

	適している	やや適している	普通	やや適さない	適していない	合計
回答数	14	9	18	2	1	44
適正	32%	20%	41%	5%	2%	100%



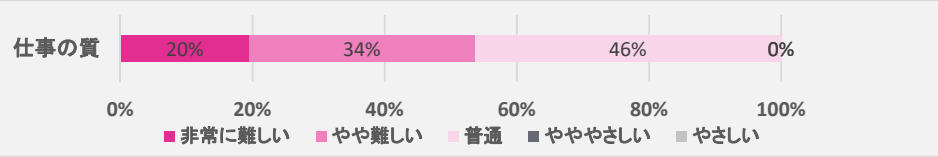
<仕事の量>

	非常に多い	やや多い	普通	やや少ない	少ない	合計
回答数	1	15	27	1	0	44
仕事の量	2%	34%	61%	2%	0%	100%



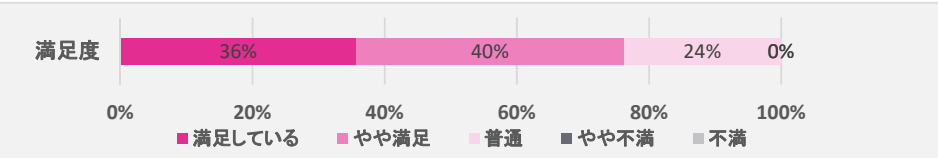
<仕事の質>

	非常に難しい	やや難しい	普通	やややさしい	やさしい	合計
回答数	8	14	19	0	0	41
仕事の質	20%	34%	46%	0%	0%	100%



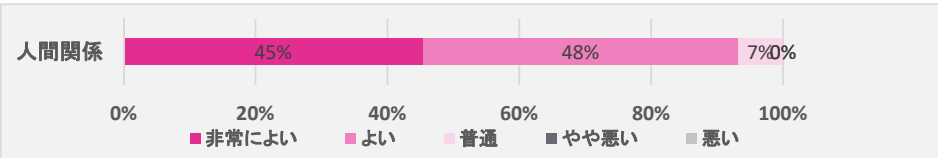
<満足度>

	満足している	やや満足	普通	やや不満	不満	合計
回答数	15	17	10	0	0	42
満足度	36%	40%	24%	0%	0%	100%



<人間関係>

	非常によい	よい	普通	やや悪い	悪い	合計
回答数	20	21	3	0	0	44
人間関係	45%	48%	7%	0%	0%	100%



事業報告の附属明細書

社会福祉法第 59 条第 1 号に基づき報告する令和 6 年度事業報告の附属明細書については、事業報告の内容を補足する重要な事項が存在しないので作成していません。

令和 7 年 5 月 30 日

社会福祉法人恵の実

理事長 尾崎 恵理子